歩む会　視察報告書

視察日　　令和元年 10 月 16 日～18 日

視察地　　一日目　　下関市

　　二日目　　萩市

　　三日目　　山陽小野田市

視察者　　鈴木　一、阿部　久夫、牧野　晶、塩谷　寿雄、

　　勝又　貞夫

歩む会視察

1、　令和1年10月16日
2、　視察先山口県下関市
3、　視察内容　ジビエ有効活用推進事業について
4、　説明者　有害対策室長　高田潤一郎

●下関市の概要

平成17年下関市と旧豊浦郡4町と対等合併により誕生、人口は27万人と県下最大の中核都市であったが、現在は約26万人と約2.2%減少している。
面積は716㎢で、中山間地域が多く、イノシシとシカの被害が多く発生しており、有害鳥獣対策に力を入れている。

●野生獣による被害額

平成21年間から統計を取っているが、年々被害額が増加し、30年度は140,455千円でイノシシとシカで8割を占めている。
サルは檻の中に捕獲し、殺害している。熊は生息していない。

●有害鳥獣捕獲奨励事業

補助金額は1頭あたり、イノシシ5千円・シカ1万円・さる2,6万円
イノシシとシカは国の補助金7千が出ている。

●被害防止対策

・モンキードッグの養成訓練・射撃研修会の開催・捕獲檻の貸し出し
・狩猟免許講習会へ交通費の助成など

●ジビエセンター建設の概要

平成20年下関市と長門市の市長会談で決定したが、22年長門市が離脱し下関市単独で建設。平成25年総事業費56,148千円うち国費27,229千円、市費28,919千円で、指定管理制度とし、市内にある食品会社に委託している。
市の指定管理料として年間580万円を支出している。
イノシシとシカに限定し、加工食品を販売、市は販売に対して口を出さない。

●所信

サルの捕獲に対して2,6万円を出している事と、ジビエセンターに毎年500万円いじょう管理料を支出して要ることに驚いたが、市の予算に対して市民からの反対もなく、今後の状況を見ながら後1棟建設計画が予定されている。
当市においては、年々熊・シカ・イノシシ・サルが増加しており、ジビエセンターが必要だと思うが、料理人の問題や（特に解体作業）、完成後の維持管理費に多額の費用を考えると極めて困難だと思う
私は、たまに猟友会の手伝いで、熊・イノシシの解体を手伝う事があるが、大変な作業で、よほどでない限り後継者が育たないと思っているが、1人でも若い人から猟友会に入って頂くことを願っています。

萩市　「健康寿命延伸について」
（健康維新のまちプロジェクトの具体的な取り組み）

説明員　萩市保健部　部次長兼推進課長兼保健ｾﾝﾀｰ長　　河上屋　里見　様
健康増進課　管理栄養士　　西原　理恵　　様

萩市は歴史あるまちで、「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」と言われるほど、毛利藩政期に形成された城下町のたたずまいが世界遺産として今なお現存している町です。又、吉田松陰をはじめ高杉晋作、木戸孝允など近代日本を切り開いた人々を輩出した。建物も当時のまま残っていて感慨深い。市役所前にある藩校であった明倫学舎、その木造の建物の威容さに感動した。さすが長州であると感じた。

萩市は人口 47,000 人ほど、平成の合併時は南魚沼市ほどあった人口も減少の一途だと感じた。歴史ある街でさえこの状況である。まして時の総理の出身県でもあるのに。

平成 28 年度の萩市の健康寿命は県下下位に位置している。このことから「健康維新のまち」宣言をした。萩市基本ビジョンの中にある健康に関することを、課を超えて縦横断的に取り組んでいる。維新のまち萩市(子どもから高齢者までみんないきいきと楽しく暮らせるまち)を目指す。

取組のポイントとして、生活リズム(睡眠)、ストレスコントロール、食生活(節塩・減脂)、運動(体操･ｳｫｰｷﾝｸﾞ)、喫煙(禁煙・受動喫煙防止)、受診行動(検診)と5つのテーマをあげて、実際掛け声だけでなく、積極的行動をしている。

今年度のチャレンジ目標として、・めざせ節塩・毎日なかまと楽しく体操・地域に出よう！活動しよう！の 3 つの重点目標をあげている。その中に細かく 9 の具体的な活動方法と取組分野をわかりやすく説明している。非常にわかりやすい内容である。

例えば、萩・体操やっちょるﾏｯﾌﾟで市内の体操会場が全てわかり、誰でも参加しやすい。その中には健康づくり応援隊があり、家族・仲間や地域の方へ健康づくりの知識や方法を広めている。現在 90 人ほどで活動。

次に、「節塩」の取組である。乳幼児期から栄養相談の中で、問診や離乳食の試食を通して、保護者へ薄味や噛むことの必要性を教える。各地域の集団検診では、①食塩摂取量チェックの実施②おいしい減塩レシピの試食等積極的にやっている。健康・栄養相談日を設けて、市役所ロビーでの職員・市民の定期的な健康管理の支援。地域の企業との連携で「減塩弁当」の販売。広報で節塩指南書の連載。市役所ロビー等に節塩 PR コーナーを設けたり、取組の力の入れ方が違

う。

この施策を取り組む際長野県へ視察をしたそうです。長野県は平均寿命が全国下位であった。野菜は十分獲れているのに漬物が名物で、そこから塩分の取りすぎがある。徹底した減塩に取り組んだ結果。長寿県になった。南魚沼市も徹底した取組が必要ではないか。

萩市では 7 割の無関心層を感心層に転換する働きかけを実施している。これには、行政だけでは限度があり、地域組織とのつながりが必要であるとのこと。

山口県の醤油は甘すぎてダメだし、味噌汁も母ちゃんのは味が薄いと言ったら笑われました。やはりヤマサ醤油がいいという会派の声もありました。

萩市では醤油醸造所もありコラボして節塩醤油にも取り組んでいる。

管理栄養士の言葉として「人間の舌は 14 日あれば変えられる」ということでしたが小生は幼くして濃い味に慣れてしまって、もう無理かも。

帰り際、説明員の 2 人に「机上論が多く、他市の視察では地元に密着した質問はあまりなく、南魚沼市の皆さんは地元のことを考えておられる」と言われ甚だ鼻が高かった。かつて福岡でも委員会視察で「こんな真面目な視察見たことがない」とバスの運転手に言われたことがあったが、他市はどんな視察風景なのかな。

視察いい視察ができましたが、憧れの小京都萩の歴史に少しですが触れることができ感謝です。

◆10 月 18 日　山口県　山陽小野田市

●調査内容

①議会基本条例の検討と見直しについて

②議会報告会のあり方について

③広報委員会活動の役割分担について

当日、山陽小野田市の議員 3 名と議会事務局が対応し、資料に基づき説明を受けた。

山陽小野田市は、早稲田マニフェスト研究所の議会改革度ランキング2018で、全国 22 位(県内 1 位)とのこと。議会活動量で全国 4 位の評価を受けたこともある。この自治体では、議会基本条例の制定と実践により、目に見える様々な改善がなされている。

議会基本条例の制定については、2 年 3 か月にわたり、52 回の慎重審議がなされたとのこと。これにより、情報公開が進み、市民参加が増え、議会そのものの機能が強化された。基本的には、この条例は、さらにより良いものにするため、2 年毎に検証し、見直してゆくとのことで、議会の質的向上を図ろうとするものである。最高決定機関としての議会の姿勢がここに表れている。

議会報告会については、プロジェクターを使っての説明や、その後の意見交換・発表など、様々な工夫がみられるが、参加者が少ないことが今後の課題とのこと。これはどこの自治体にも言えることで、良い方法はないものか・・・？

広報活動については、広報特別委員会と広聴特別委員会の、二つの委員会で役割分担を決めて行なっている。

・広報特別委員会

議会だよりの発行。

ホームページやフェイスブックでの発信力の強化

・広聴特別委員会

議会報告会や市民懇談会の実施。

市民との情報交換の重視

情報を共有し、議会の機能を強化するため、議会モニター制度や議会アドバイザー制度など、市民の意向をくみ取るための、先進的な取り組みが目立つ。議会の様々な動きを、フェイスブックで毎月 5～6 回程度発信しているとのこと。これについては、わが市でも見習うべきと思う。

全体として感じられたのは、行政側の様々な情報を、可能な限り伝えようとしていることと、市民の意見を引き出すために、あの手この手の工夫をしていることであった。どうあれ、この内容を１時間半で学ぶことは不可能だが、多少なりとも今後の議会活動の参考にしたい。

議会改革などは、本気で取り組もうという姿勢が無ければ、簡単にできることではないと再認識したが、可能と思われるところから、少しでも見習うべきと思う。

わが南魚沼市は、《情報公開・情報開示》を謳い、透明性の高い行政を目指すとしているが、必ずしも市民はそう思ってはいない。議会活動においても同様であろう。

今回の政務調査で、自治体行政の場における姿勢の違いを感じた。総務文教委員会で北海道のニセコ町を訪問した時の、【税金で行なっていることは、すべて住人に公開する】という行政の基本を再度思い出した。